



第14回日本化学連合シンポジウム
「化学研究・教育マネジメント
—コロナで変わった研究と教育—」

日時：2021年3月9日（火）14:00~17:50

会場：早稲田大学小野記念講堂

開催方式：現地開催およびオンライン開催を併用したハイブリッド方式
(開催方法は、状況によって変更する場合がございます。)

主催：(一社) 日本化学連合

共催：(依頼中) 早稲田大学、化学工学会、クロマトグラフィー科学会、高分子学会、触媒学会、石油学会、繊維学会、電気化学会、日本エネルギー学会、日本化学会、日本セラミックス協会、日本ゼオライト学会、日本地球化学会、日本膜学会、日本薬学会

<趣旨> 科学者の「研究力」向上が各所で議論されていますが、研究の進展には個人の研究力のみならず、研究マネジメントが大きな役割を持つことが広く認識されています。また、大学において学生に系統的な知識を修得させるためには、教育についてもシステムティックなマネジメントが必要とされています。さらに、今回のCOVID-19の蔓延は、大学や研究機関での研究や教育のあり方を大きく変えてきています。COVID-19対応の1年を振り返り、今後の化学の研究、教育のあり方を、「研究、教育マネジメント」という視点から議論したいと思います。

<14:00~14:05> 会長挨拶

岩澤 康裕 (日本化学連合会長)

<14:05~14:10> シンポジウム趣旨説明

長谷部 伸治 (日本化学連合副会長・企画委員会委員長)

<14:10~14:45>

1) 「COVID-19で加速するオープンサイエンスと科学のデジタルトランスフォーメーション」

文科省 科学技術・学術政策研究所 林 和弘

<14:45~15:20>

2) 「大型プロジェクトのマネジメントについて - JST ACCEL PMとして思うこと」

京都工芸繊維大学 松川 公洋

<15:20~15:55>

3) 「今後の大学運営における研究マネジメント職」

早稲田大学 喜久里 要

<15:55~16:05> 休憩

<16:05~16:40>

4) 「新型コロナ下での実習事例:遠隔授業と対面実習のハイブリッドの試み」

山梨大学 大山 拓次

<16:40~17:15>

5) 「コロナ対策への化学の貢献—感染・医療崩壊・コンタクトトレーシングのキネティクス解析」

筑波大学 中村 潤児

<17:15~17:45>

6) 総合討論

「化学研究・教育マネジメント —コロナで何がわかったか、何が変わったか」

<17:45~17:50> 閉会の挨拶

関 隆広 (日本化学連合副会長)

事前の参加登録・銀行振込が必要です

参加費

個人：3,000 円（講演資料集代として）

Web によるグループ視聴：10,000 円

参加申込方法：当連合のホームページの参加申し込みフォームを用いて、氏名，所属学協会，勤務先と職名（学生は学校名と学年），連絡先（メールアドレス）などを明記し，2021 年 3 月 5 日（金）までに、下記の Web サイトから申込みください。入金確認後、ZOOM の URL、ID、PW を連絡致します。

参加費振込先

三菱 UFJ 銀行 神田支店 普通 0092454 一般社団法人日本化学連合

※カナ表記は イッパンシャダンホウジン ニホンカガクレンゴウ です。

申し込み先 URL: <http://www.jucst.org>

問い合わせ先：一般社団法人日本化学連合 事務局 E-mail: secretariat@jucst.org